

令和2年度 第2回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 令和2年9月24日(木) 午後2時から3時35分まで
- 2 会 場 中央図書館 3階視聴覚室
- 3 出席者 図書館協議会委員：12名(欠席なし) 傍聴人：なし
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長、
サービス担当係長、調査担当係長、資料担当係長、推進担当係長、
小川西町図書館長 計8名

4 配付資料

- ・図書館行事等の報告と今後の予定(資料No.1)
- ・令和2年度月別貸出状況(資料No.2)
- ・令和2年度広域利用市別貸出状況(資料No.3)
- ・市議会9月定例会について(資料No.4)
- ・第3次小平市子ども読書活動推進計画令和元年度進捗状況(資料No.5)
- ・小川デザインプロジェクト基本設計修レイアウト(案)のポイント(資料No.6)

5 議事等

報告事項

① 図書館の運営状況について

- ・図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No.1)

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、4月以降行事等について中止をせざるを得なかったものが多かった。8月から展示等を中心に、できることから少しずつ実施している。

主なものについて説明すると、8月22日から中央図書館の2階ギャラリーにて「彫刻家齋藤素巖と小平」の展示を行っている。9月1日からは「みんなの“読書の夏”」の展示を行っている。

今後の予定として、9月29日にはおはなし会を試行で中央図書館3階視聴覚室で行う予定である。人数を5名程度に絞り、対策を色々取った上で実施する。さらに対策が必要だということがあれば、その後の開催に向けて活かしていきたい。10月以降はイベント等も再開を予定しており、10月10日にはなかまちテラスでイルミネーション取付作業、11月7日に点灯式を行う。例年行っているものだが、密にならない対策をたてた上で行っていきたい。その他の催しも、展示が中心となるが、実施していきたい

と考えている。

- ・令和2年度月別貸出状況について(資料No.2)

今年度の8月までを集計したものである。休館していたところを6月から再開し、当初、貸出・登録人数が伸び悩んでいたが、8月に入って前年度比マイナス10%くらいまでは回復しており、徐々に回復傾向にある。

- ・令和2年度広域利用市別貸出状況について(資料No.3)

広域の市別の貸出状況についても8月にかなり回復してきている。

② 市議会9月定例会について(資料No.4)

一般質問について、図書館に関する質問としては、安竹洋平議員から「市長責任でビジョン構築を急げ、ICT整備の好機を逃すな」として、コロナ禍前と比較して一日平均利用者数や今後の見込み、市の公共施設のWi-Fiの設置状況、千代田区が実施しているWEB図書館について検討しているかという3点が示された。

利用者数については、全館貸出数が7月前年同月比で17.5%減、8月が10%減ということで回復傾向にあることから、徐々に回復していると答弁している。Wi-Fiについては、なかまちテラスと中央図書館、中央公民館に設置されており、今後は小川駅西口地区の市街地再開発事業の公共床に設置をしていく予定であると答弁している。WEB図書館については、現在は具体的な検討はしていないが、動向がかなり変化をしてきていることから、メリット、デメリットの情報収集に努めると答弁している。

また、「本の宅配貸出サービスを要介護1以上の方に限定せず、様々な理由で来館が困難な方にも拡大することについて」という請願が提出され、9月15日の生活文教委員会で審議された。請願事項の1点目は、本の宅配貸出サービスを要介護1以上の方に限定せず、長期入院、出産前後の方、家族の看護や介護等で外出困難な方、心身に障害のある方、要介護1以上ではないが図書館に通うことが困難な方などでも拡大してほしいという内容。2点目は、仲町図書館で実施している貸出ロッカー制度を他の図書館に拡大してほしいという内容である。

4名の委員から質問があり、要介護の条件を設定した経緯、ちらしの配布以外の周知方法、4年間ボランティアが減少しているが対策はしていたのか、財源についてはどの程度対応可能なのか、新築のときに電子図書館や自動貸出システムを低コストで入れたらどうか、貸出ロッカーの導入については雨による水漏とかの大きな懸念があるとは思えないなどの質問があった。

質疑の後、請願の取り扱いについて協議が行われ、請願者から取り下げの願書が提出され、全会一致で承認された。理由としては、委員会で議論された内容に基づいて請願を出し直し、9月30日の市議会本会議で、全会一致で即決される見込みとなったからということである。

③ 第3次小平市子ども読書活動推進計画の進捗状況について(資料No.4)

今計画は、対象期間を平成27年度から5年間の計画としており、令和元年度が計画

の最終年度だった。進捗状況の報告にあたり、庁内における情報共有を8月に関係課を集めた子ども読書活動推進計画検討委員会を书面開催で行い、報告を取りまとめた。

この報告では未就学児と小学校、中学校、高等学校そしてその他に分けている。令和元年度の特徴的な事項としては、「乳幼児向けの絵本リストの配布および図書館案内」とある中で、ブックスタート事業を開催し、大変好評を博している。「来館できない子どもと保護者へのサービス」ということでおはなし会などの行事を土曜日や日曜日にも開催したことで、平日に来られない親子にも来てもらえるようになったことなどが挙げられる。この1年間については、新型コロナウイルスの感染症の影響で、2月24日以降に予定していた行事について中止とせざるを得なかった。

第3次小平市子ども読書活動推進計画は令和元年度で終わったが、5年間の総括としては、平成27年3月にオープンした仲町図書館を学校図書館との連携図書館として、学校図書館運営の支援を推進してきた。新たな取組みのブックスタートも定着しており、乳幼児がいる家庭への読書活動の推進に役立っていると考えている。

今後も今年度からスタートした第4次小平市子ども読書活動推進計画において、新たな取組みについて、順次着手すると共に、計画を着実に進めて、子どもが読書に親しむ環境を整備したいと考えている。

④ 小川駅西口公共床の基本設計修正レイアウト（案）について（資料No.6）

小川西町図書館については、小川駅西口地区の市街地再開発組合が建設を進めている新建物の4階と5階に移転する予定である。これまでの経緯としては、平成30年度において、12回のデザインカフェを開催し、意見、アイデアを頂戴している。内容は、中央・小川デザインカフェ報告書にまとめられている。ゆったり本の読めるカフェや自由に交流・話し合いができるフリースペースの設置などの案をいただいている。また、西部市民センターで、利用者・利用団体ヒアリングを2回実施した。主なものとしては、防音対策をしっかりとしてほしい。飲食のできるスペースがほしいといった意見をいただいている。小川エリア周辺の学生・在勤者・子育て世代・障がい者・近隣住民の方を対象としたアンケートを実施し、また、市立小・中学校で出前授業を実施して、新しい建物でやりたいことなどを考えていただいた。アンケートでの学生のニーズでは、カフェなどの飲食機能、実習室などの学習機能についての要望があった。令和元年度においては、7月にオープンハウスで、基本計画素案のパネル展示やトークセッションが行われ、また、小川西町公民館においては基本計画素案の方向性についての内容説明と質疑応答が行われた。様々な場で市民参加による意見、アイデアをいただいた上で、令和元年12月に公共床等の整備基本計画が完成した。

基本計画では、事業推進における共通の考え方として、市民と行政との協働、新しい公共床における地域課題の解決、また地域コミュニティや共助による公共サービスの創出の拡充に寄与する施設作りを目指すとしてあり、多機能な複合化の方向性として現在小平元気村おがわ東にある市民活動支援センターあすびあ及び男女共同参画センターひら

くについても公民館や図書館との相乗効果をもたらすことを目的として小川駅西口公共床に移転することが挙げられている。

今年度に入ってから、6月に図面レイアウト案について意見募集が行われ、8月には修正レイアウト案に関する意見募集、利用者・利用団体ヒアリング、ワークショップが行われた。また、今後10月末にはオープンハウスの開催をして、基本設計の完成を目指しているところである。

今後は、設計、工事を経て、令和6年度以降の供用開始を目指している。

(報告事項についての質疑・応答)

会 長：図書館の行事で、おはなし会を5名で行うとあるが、中央図書館視聴覚室ならもう少し大人数でできるのではないか。

事務局：一つの目安であり、おはなしをする方と対面になるため、ある程度距離を取らなくてはいけない。5名としているが、例えば、友達と来たときなどは融通を利かしていきたいと考えている。大勢集まった場合には、おはなし会自体は20分くらいで終わるため、待ってもらって、2回目を行うという対応を考えている。

会 長：事前申込みは不要なのか。

事務局：申込み制ではない。

委 員：図書館100番くじとは何か。

事務局：秋の絵本を集めた展示の中から本を借りると、どんぐりポイントというハンコを押し、ポイントが貯まると、くじを引くことができるものである。おはなし会で参加者にプレゼント用として作成したおもちゃ、しおり、小物等が、今年度前半におはなし会が中止になり活用できずにあるので、くじを引いてもらい、プレゼントとして渡す。

委 員：様々な行事が中止になっているのはしょうがないと思う。おはなし会を人数を減らして再開するというのはわかるのだが、それ以外の講演等については、どのような条件であれば再開できるという見込みか目安はあるのか。

事務局：講演会の難しいところは、講演される方に依頼をして、了解いただき、企画を立てていくが、その時々感染状況によって急に中止ということも起こりうるため、了解いただいた上で講師に依頼しなければいけない。部屋を使用する上でも、なかなか従来どおりとはいかない。講師の了解と、会場の2つの制約があるため、それをクリアした段階で少しずつ再開していくと考えている。

委 員：図書館の様々な行事は集客能力があると思うので、今利用を増やしたいのかというのは難しいところがあるが、なるべく早い再開を望んでいる。

委 員：100番くじは毎日引けるのか。

事務局：ポイントがつくのは、1日1回になる。

委 員：プレゼントの作成が大変ではないか。

事務局：中止になった行事で渡す予定だったものや臨時休館中に作成したものがあるので、それ

を活用する。

委員：近隣市からの小平市の図書館の利用について、数が少なく分からない。私は東久留米市の滝山図書館は大きな辞書を見たい時に行く、週刊誌を見たい時は西東京市の芝久保図書館へ行くという利用の仕方をする。図書館の特色をお互いの市民に情報を流して広報することも大事だと思う。多摩六都の図書館をどこが利用しているというのはあるのか。

事務局：小平市の図書館は、東村山市民の方の利用が多い。ただ、貸出可能冊数に違いがあり、一概に貸出数が多いから利用が多いというのは難しい。広報の周知としては、多摩六都版の図書館案内のリーフレットを各市同じものを一緒に作成している。

委員：10月1日になかまちテラスティーンズ委員会を開催する。これまでは小平一中と小平高校生徒を中心にティーンズ委員会で大賞を決めていたが、今年は集まれないため、初めての試みだが、Zoomを使用して意見交換する取組みを計画している。高校生は個人のスマートフォンで参加、中学生は学校のパソコンを使用する。例年は選考委員会で選考していたが、今年は、3作品に絞ったものを図書館で購入し、多くの人を読める状態にさせていただいた上で、オープンの投票をして大賞を決める。今年度は、広く知らしめることを目的と考えているので、最終的にはリーフレット等も作成し、お目にかけていたいと思う。

委員：学校でZoomの使い方の指導はするのか。

委員：今回使用しているZoomを今後も広めていくかは別の話だが、GIGAスクール構想もあり、オンラインを使用した学習を広めていこうということは話しており、一中でもGoogleのclassroomを使用している。東京都も推奨しており、研修もあったが、こういう形で交流し合うことが増えるだろうし、指導もしていきたい。

会長：パソコンからログインすることになるのか。

委員：タブレットが全員に配布され、家に持ち帰ることが可能になれば、家庭に一人一人が通信できる環境ができるので、各家庭からのログインも可能になる。

会長：セキュリティをかけて各家庭のパソコンから入力することも考えているか。

委員：どういった使い方ができるかをそれぞれ研究している。現状ではコロナの関係でGIGAスクール構想が早く進んでおり、配られた後何に使うかが後からになっているが、使用していきたい。

委員：今の話と先ほどの講演会の話に関係させてのことだが、昨今のイベントはWebex等で開催されることもあるが、講演会等も講師の方が対応可能であれば、ZoomやWebexで行うことも検討してもらいたい。図書館が今年度講演会を全く開催せずに終わるのはもったいないと思う。

事務局：市の行事でも色々検討を進めている。市が後援している他課の行事でもZoomで講演会を行うものも出てきている。そういった方向性は出てくると思う。

会長：各課が行ってから図書館が準ずるのではなく、図書館が先駆けて行うのはいかがか。

事務局：図書館が先駆けて行うにはハードルが高い。職員が他の現場に参加して経験した上で、

研究していきたい。

会 長：図書館の中だけでも実験はできると思う。消極的にならずにどんどん進めてほしい。

委 員：小川デザインプロジェクトは、レイアウト等が決まってきているようだが、なかまちテラスのように愛称は決まっていないのか。

事務局：なかまちテラスのように公募するかは分からないが、いずれ決めていくと思われる。

委 員：なかまちテラスはデザインも優れているし、建築としてもいいのだが、おもてを通った時に図書館だと認知しにくい。誰もが通る場所に図書館と分かるような掲示ができるような形に今後進めてほしい。

委 員：新しい小川西町図書館の場合、1階に掲示しないと誰も図書館があると思わない。

委 員：1階の人が通るところに大々的に図書館があることを分かるようにしてほしい。

事務局：小川駅西口公共床は、今年度の後半から実施設計が始まり、より細かい具体的なことが始まる。公共床は4階・5階だが、表示を1階や改札階のある2階にも出すという検討をしていかなければならない。

事務局：他自治体の図書館でホテルの上などにあるものもあるが、図書館に行く目的がある人でないと、目につかなくて探しづらいところはある。どのようにして図書館があるかを認知してもらうというのは課題である。今後建設する中でもこういった形で目に付くようにできるか言っていきたい。

委 員：バスの中からも分かるようにしてほしい。

委 員：図面からはなかまちテラスより大きいのか小さいのか分からない。

事務局：図書館面積でいうと、現在の小川西町図書館と変わらない。仲町図書館よりは広い。

会 長：2階が改札階なのか。

事務局：2階が小川駅の改札階になる。

会 長：2階が西武線の改札とつながるのか。

事務局：西武鉄道と調整していると聞いている。

会 長：1階、2階は商店になるのか。

事務局：商業施設と聞いている。4階、5階が公共床だが、5階建ての建物があり、横に9.9mの高層マンションが建ち、それが繋がっている。5階建ての部分と高層ビル的一部分が公共床という形で施設が入る。

会 長：1階からマンション棟になるのか。

事務局：1階から、小川駅西口地区市街地再開発組合が持っているマンション棟になる。住居が入るかは分からない。

会 長：改札前の案内図が大事である。

委 員：11小を中心とする公共施設の合築の説明会があったが、花小金井北分室はなくなるという話だった。綿密に計画されており、整然と説明された。制限要素が書かれていたが、夢をいっぱい取り込んで作って、あとでどうしてもできないのはしょうがない。夢が住民に伝われば、直接住民が何かすることがあるかもしれない。隣の農地まで広げて、全

体として素晴らしいものを作ったらどうだろうかという話を説明会で言った。分室がなくなったとしても図書館の一部が残るようなことも考えられないか。花小金井図書館の利用頻度が高いから、単純に潰すということではなくて、そういう発想を持って全体計画を作ると面白い。

事務局：11小についても、今後、催しやワークショップ的なものが開催されていくと思うが、図書館の機能についても、面積はゼロになる方針が示されているが、何もできないのではなく、検討の余地はあると考えている。会合等を通じて、意見をいただきながら検討していく。

会 長：請願について、市議会の中で一回取り下げて、通る見込みがあるから再提案したということは、実行しようということがほぼ見えているのか。

事務局：請願者が議会に請願書を提出し、委員会で議論がされたが、色々な意見が出ていく中で、この部分を修正したら全ての委員が合意できるのではないかと見えたが、修正箇所が大きかったため、一回取り下げをして、出し直しという形になった。あらかじめ同意がなされているので、市議会本会議の場で採択を目指すということである。

会 長：在宅介護している側の方など要介護1以上でなくても宅配貸出サービスの対象にすることを受け入れたということなのか。

事務局：こちらは調布市の例である。請願事項の限定的なところを、あまり限定せずに表現するようにして出し直すことになるが、採択されると、図書館の側で検討し、進めていく。宅配貸出サービスは、今年の1月に要件を緩和をしたが、コロナの影響で施設や対象者にちらしの配布等がなかなかできず、これから実施していくところである。図書館としては1月に緩和したところで、状況を見ていきたいというところを説明した。宅配貸出サービスは、ボランティアの方に宅配してもらっているので、マンパワーとのバランスを見ながら、再拡大は図書館でも考えているところで、検討できると思う。

会 長：貸出ロッカーも検討していくのか。

事務局：貸出ロッカーについて説明すると、仲町図書館の壁に埋め込みで10箱あるが、集合住宅にある郵便受けのようなイメージの鍵の付いたステンレス製のロッカーで、申込みをいただいた方に暗証番号を伝えて、事前に中に本を入れて置くシステムになっている。全ての図書館で同じものを設置するには、外に設置すると、雨漏り、水漏れ、また防犯上の問題など難しさもあるが、方向性としては、小川西町の新しい図書館で同じような機能のものという広い意味では検討の対象となってくると思う。

会 長：中央図書館や花小金井図書館など、利用の多い図書館での設置の検討はされないのか。

事務局：ロッカーを設置する場所があるのか、仲町図書館のように建物に埋め込む場合は、多額の工事費がかかるため、その辺りのバランスや利用状況を確認しながら検討していく。

委 員：子ども読書活動推進計画の中に、ブックスタートで本を配布するというのがあるが、その中に利用登録申込書を入れるのはどうか。事前に用紙が手に入ると、図書館を利用しやすくなると思う。

事務局：3～4か月健診の際にブックスタートを行っているが、利用者登録申込書を配布しており、自宅を書いていただくことができるようになっている。

委員：オンラインの話だが、子ども達のテクニカルな問題やハードの問題については早く解決すると思うが、マナー、コンテンツ、セキュリティ等の多くの問題をサポートしていく体制は大事だと思う。技術を広めていけばいいではなく、子どもの成長に関わっていく問題と捉えて、社会的な問題をクリアしていくためのサポート体制が図書館にあるといいと思う。

事務局：第4次子ども読書活動推進計画の中で、情報リテラシーの関係の取組ということに記載をしている。コロナの関係でできなかったが、子ども向けに図書館の中を巡りながらリテラシーを学ぶイベントを考えていた。今後も何かしらそういった取組をしていきたいと考えている。GIGAスクール構想など、子どもを取り巻く環境が一気に進んで変わってきているため、そのポイントが重要になってくると認識している。

委員：私がZoomを使い始めたのはこの4月からだが、大学でZoom研修を先日行った。基本的にはマナー、やってはいけないことを教えてほしいとの依頼だった。大学生のほとんどは、例えば人のスクリーンショットをとってはいけないなどのマナーは大丈夫であるが、大人数の授業の際にいたずらのようなことがあるため、防ぐための方法を話した。どちらかと言えば、操作が苦手な年代の高い方のほうが、自分のプライバシーのある画面を誤って出してしまうりする。

委員：子ども達、学生達のマナーは大丈夫ということだが、外からの攻撃に対するセキュリティ等の技術的な問題について教えていけたらいい。

委員：学校図書館の3つの機能の中には、情報センター機能があるが、読書センター機能に偏りがちなところがあり、情報センター機能は弱いと思う。学校図書館に様々な支援をいただく中で、情報モラルも含めた情報センター機能について、図書館からの情報発信などの指導をもらえると学校としては有難い。

委員：知り合いの方で、高齢で耳が遠く、目も悪い方がいるが、パソコンでは音を出して聞くことができるので、届いたメールも聞くことができる。若い世代はダウンロードして家で読むことなどもできるが、本が読みたい。新聞を読むのが日課だったが新聞をとるのは大変。健康のために図書館に行って新聞を読むなど、福祉政策かもしれないが、これからの図書館の一つの機能として必要なのではないか。

事務局：図書館でもハンディーキャップサービスを実施しているが、今後は対象の方も拡大していくので、状況を見ながらサービスを増やしていく。電子書籍も今後普及してくれば、在宅で読めて、音も出て聞けるなどあるので、検討していかないといけないと思う。

委員：第4次小平市子ども読書活動推進計画に情報リテラシーの支援が新しい取組として入った。大学生と接していて感じるが、色々な情報が手に入る中でなぜ本の情報が大事なかが抜け落ちている気がする。引用方法なども、一度読んだ本は自分の頭にあるから自分のものと思っている学生がけっこう多く、引用表記なく引用してしまう。ダウンロー

ドした情報の使い方等、情報リテラシーは色々なことに広がる。なぜ本の情報が大事かというところに焦点化したイベントの実施や、他の同じようなイベントにも情報リテラシーを入れてほしい。そのようなことが忘れ去られた状態で大人になることを心配している。

事務局：今後イベントを検討していく中で、昨年と比べても情報リテラシーの重要度は増してきているので、取り組んでいく。

会 長：分室縮小の話について、以前分室を存続させてほしいという意見が出た。前期の図書館協議会の提言の中では、地区館、分室の見直しを検討してもいいのではないかとしている。図書館ではどのくらい分室について検討が進んでいるのか。

事務局：市全体の公共施設マネジメント計画があり、見直しのなかで、床面積の縮小から、分室はゼロにしていくとされている。花小金井北分室についてもなくなる方向になっていく。

委 員：分室は残して、地区館を減らすべき。分室は小さな子どもが必要としている。地区館は、大人であれば他館に行くこともでき、予約して取り寄せして借りることも可能。面積を減らしたほうがいいのであれば、地区館が各地区にある必要はないだろう。

委 員：小平市の予算規模からすると、多くの館を維持しすぎだと思う。武蔵野市には、3つの図書館しかなく、特に武蔵野プレイスは日本一の図書館とよく紹介されるくらいのサービスを展開している。リソースを集中して、資料をかなり変えている。小平市がこれだけの数の地区館、分室を維持していくとなると、それぞれの図書館は最低限のものにならざるを得ない。光熱水費等、館の運営にかかる費用が1館1館かかってくる。戦略的にお金を使っていかなないと図書館の数は多いけれども古い資料しかない図書館になってしまう。地域の近くの愛着のある分室という話でなく、トータルで市として考えていけないといけない。

委 員：昔と違い交通手段もあり、歩いて10分のところに図書館がないといけないということはない。

事務局：前期に今後の図書館のあり方に対して提言いただき、方針を作成中である。公共施設マネジメントや市全体での方針もあるが、いただいた提言を参考にして検討している。

会 長：全ての市民が満足するというのはできないが、もし方向転換するなら、8館3分室はさらに統廃合するべきかもしれないとまで話が進むかもしれない。

委 員：分室を残す考えに賛成。本屋がなくなってきている。子どもがちょっと行って、本に親しめる場が必要である。学校図書館はあるが、時間が限られている。簡単に統廃合するのではなく、そういう配慮も必要。子どもは遠出ができないので、小さくても近くに必要だと思う。

委 員：分室に新しい本や大人の本はほとんど要らない。子どもが初めて自分から本に親しんでいける場が身近にあるのがよい。曜日を限定するとか、子どもが帰ってくる時間に限定してもいい。

委 員：子ども文庫連絡協議会は地区館でおはなし会の活動をしているが、各地域に地区館があ

ることによって、地域ごとの違いもあり、おはなし会から子どもに本に親しんでもらい、読書、分厚い本が読めるようにしていくため、今のままが合っていると思う。

委員：前期の提言の内容と真逆の話になっている。多摩地域の中で小平市の図書館は、かけている予算に対してパフォーマンスの低い図書館になってしまっている。近隣の自治体と比べても明確である。例えば三鷹市は、分館・分室は多くないが、移動図書館という形で、20カ所くらいの拠点に対してサービスを行っている。日野市の図書館から始まった移動図書館はかなり昔のサービスだが、地区館、分室を維持する予算と一台移動図書館を維持する予算を比較して、サービス拠点がなくなるのが問題であれば、移動図書館のようなものも含めて検討されるといいと思う。箱を維持するために、その箱に入れるものが痩せ細っている。見直していかないといけない。

委員：建物より維持経費はかかるかもしれない。

委員：講談社のキャラバンカーで訪問する全国訪問おはなし隊に参加したことがある。読み聞かせを行う。読み聞かせをする方も聞く方もコミュニケーションがあり、インパクトがある。館を減らして、移動図書館を取り入れるのも面白いのではないか。現在やっている読み聞かせは限られた人だけだが、幼稚園、小学校単位で、こちらから出向いていく。子どもと話して会話がすごくはずむ。

委員：今までは歩いて15分で図書館が利用できるということだったが、交通の便を使って何分でいいのではないか。メリハリをつけた図書館らしい図書館がいい。同じ場所に建て直さなくてはいけないということはない。

(2) 協議事項

特になし

(3) その他

特になし